

「一人ひとりが みんなたいせつ」 ～くすのきしげのりさん講演会～

児童文学作家のくすのきしげのりさんを講師に迎え 8 月 3 日に末吉総合センターで「教育講演会」を開催しました。演題は「一人ひとりが みんなたいせつ～作品に託す願い～」。

当日は教職員や市民など約 200 人が参加し、くすのきさんの温かな語りに耳を傾けました。

講演では作品が生まれた背景や、子ども一人ひとりの気持ちを受け止めることの大切さについて語られました。また『おこだでませんように』や『ふくびき』などの作品を、くすのきさん自身が心を込めて読み聞かせました。子どもと関わる大人自身が子どもにとっての環境であり、手本となる存在であるという自覚が大切であることも伝えました。参加者は作品に込められた思いに触れながら、子ども達の気持ちに寄り添い、一人ひとりを大切にするこの意味を改めて考えさせられました。



学力調査から見える市内の子ども達の学び ～令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果から～

学力調査 国語・算数（数学）の平均正答率と英語の IRT スコア

学年	小 6		中 3		
教 科	国語	算数	国語	数学	英語
本 市	53%	47%	56%	46%	443
鹿児島県	61%	55%	62%	52%	476
全 国	60.9%	56.4%	63.9%	57.0%	499

※「IRT スコア」とは、問題の難しさなどを考慮して、児童生徒の学力を数値で表したものの。500 を基準として、数値が高いほど学力が高いことを示す。

市ではすべての教科で県・全国の数値を下回りました。漢字や言葉の使い方、数と計算など基礎的な知識・技能には一定の力が見られます。課題は、複数の情報を関連付けて考えたり、自分の考えや理由を文章や式で説明したりする力です。授業の中で「なぜそう考えたのか」を説明し、友達と考えを交流する学習を一層充実させる必要があります。

学習状況調査（意識・実態調査）

◎よかった項目

小 6	本市	全国
学校図書館を利用する	31.7%	17.6%
学校での悩みについて、親や家族と話す	40.9%	35.5%

中 3	本市	全国
学校での悩みについて、親や家族と話す	42.6%	36.4%
学校の勉強について、親や家族と話す	75.5%	72.2%

△課題となる項目

小 6	本市	全国
自分には、よいところがある	80.5%	85.6%
人が困っているときは進んで助ける	90.8%	92.7%

中 3	本市	全国
自分で学び方を考え、工夫する	70.6%	78.2%
自分には、よいところがある	82.3%	84.0%

「確かな学力」の定着のために

学校・教育委員会の取り組み

子ども一人ひとりの「分からなさ」に寄り添い、安心して「分からない」と言える授業を進めます。友達と考えを伝え合い、自分の考えを説明する中で、「分かった」「できた」という実感を大切にします。ICT の活用や教職員研修を通して授業を改善し、子どもが自分のよさや成長に気付ける学びを支えます。

保護者・家庭の取り組み

学力の定着には、学校での学びと家庭での生活習慣の両方が大切です。規則正しい生活や朝食、十分な睡眠に加え、スマートフォンやゲーム、動画視聴の時間を家庭で考えることも重要です。また家庭学習や読書、学校で学んだことを話す時間を大切にし、子どもの努力や成長を認め、励ますことが自信につながります。